

## 胸郭出口症候群の臨床症候・電気生理学的所見に関する症例集積研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

**研究期間：2018年8月16日～2020年3月31日**

**〔研究課題〕** 胸郭出口症候群の臨床症候・電気生理学的所見に関する症例集積研究

**〔研究目的〕** 胸郭出口症候群(thoracic outlet syndrome: TOS)のうち神経性胸郭出口症候群(true neurogenic TOS: TNTOS)は有病率が100万人に1人程度とまれな疾患です。欧米においては多数例での検討がなされ、診断基準はないものの疾患概念は確立しています。本邦においてはTOSでないのにTOSと誤診される例(disputed neurogenic TOS)や、あるいは他疾患と混同され手術されてしまい、術後に腕神経叢障害をきたす例もあります。またこれまでは整形外科領域からの報告が多く、電気生理所見も含めてその臨床像を多数例について詳細に検討した報告は少ないです。我々は、これまでに多くのTOS症例を経験してきており、その臨床像と電気生理学的特徴を後ろ向きに解析することを目的とします。まだ本邦では疾患概念自体も知られておらず、広く啓発するとともにTOSの診断基準を確立し、類似疾患との鑑別が確立できれば、臨床的に有用な情報となります。

**〔研究意義〕** TOSを正しく診断し適切な治療を行えるとすれば、他疾患と混同される例は少なくなり、意義が大きいと考えます。

**〔対象・研究方法〕** 2000年以降から2018年3月31日までに、当科及び関連施設(横浜労災病院、東京慈恵会医科大学医学部附属病院、さいたま市立病院)で筋電図検査に紹介された患者さんの神経学的所見、電気生理学的検査、画像検査を後ろ向きに検討し、エントリー基準を設けてTOS患者さんを抽出します。それらの症例の種々の臨床特徴と、針筋電図所見を検討します。

**〔研究機関名〕** 帝京大学医学部附属病院神経内科

**〔個人情報の取り扱い〕** 収集したデータは、個人毎に匿名化したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式をDVD-Rに記録し、封かん用封筒に詰め、倫理委員会事務局に提出します。TARCによる保管期間は研究終了から10年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARCにより適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部神経内科・主任教授 園生雅弘

研究分担者：帝京大学医学部神経内科・講師 畑中裕己

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科(03-3964-1211)〔内線 7068〕